

**熱帯医学・グローバルヘルス研究科博士後期課程**  
**NU-LSHTM 国際連携グローバルヘルス専攻 研究指導計画**

研究指導方針・体制・方法	<p>博士後期課程では、リサーチワーク主導型の教育課程を編成している。グローバルヘルスという学際的領域を対象とすることから、本研究科の教員を「熱帯医学」「国際健康開発」「ヘルスイノベーション」の3つの分野に集約し、学生の研究テーマに沿って主指導教員を決定する。さらに、前途のとおりグローバルヘルスは学際的なものであることから、副指導教員として主指導教員とは別の分野を専門とする教員2名を配置し、計3名の教員による共同指導体制（チーム型研究指導）を構築する。</p> <p>なお、国際連携専攻の学生については、原則として長崎大学とロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（LSHTM）の教員何れもが指導教員となるようチームを構成する。そのため、主指導教員がLSHTMの教員である場合、副指導教員のうち1名は必ず長崎大学の教員が担当することとなる。</p>
研究目的・到達目標	<p>各学生が参画する国際共同研究プロジェクトに関し、主・副研究指導教員の指導のもと、グローバルヘルス研究として十分に独創性と科学的妥当性を有し、実施可能な研究計画を立案する。本課程では、原則として日英（長崎大学とLSHTM）で実施している国際共同研究等に実際に参画する中で指導を受けるカリキュラムになっており、また、1年次の第4クォーターまでに博士研究資格審査（Qualifying Examination(QE)）を受審し、研究計画書の内容及び研究能力について審査を受ける。QEにおいて博士後期課程の質を保証のうけ、その後も適切なプログレスモニタリングにて確認を行いつつ、主・副指導教員を中心に、外部アドバイザー等からも助言を受けながら、研究計画に基づき研究を遂行し、博士(グローバルヘルス)の学位に相応しい科学的根拠に基づく研究方法・研究成果の考察を踏まえた学位論文（ティーズ形式）を作成する。</p>
研究指導内容	<p>研究計画に照らして、グローバルヘルス分野の健康課題にソリューションを生み出す研究が必要である。そこで、参画する研究プロジェクトテーマについての先行研究の探索に加え、参考文献、データ収集及び分析、フィールドワークを含む研究指導を行なう。</p>
研究指導計画、学位論文指導・作成のプロセス	<p>学生は、研究の進捗状況を管理する目的として、在籍期間を通してプログレスモニタリングを受ける必要がある。プログレスモニタリングについては、学生が主体となってプログラムコーディネーターとプログレスモニタリングの日程等を調整する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① プログレスモニタリング1（3ヶ月目） 研究課題及び研究領域、指導教員との関係、研究において必要なトレーニング、研究資金の有無等について報告する。</li> <li>② プログレスモニタリング2（6ヶ月目） 参画する研究プロジェクトのプロジェクトデザインの理解度と関連する文献のレビューの進捗、研究資金の確保状況、倫理審査の申請状況、QE実施予定日等について確認する。</li> <li>③ QEの受審。</li> <li>④ プログレスモニタリング3（24ヶ月目） 学位論文の進捗状況及び提出予定日の確認。</li> <li>⑤ プログレスモニタリング4（36ヶ月目） 学位論文提出予定日変更の有無。</li> <li>⑥ 学位論文の提出（36ヶ月目） 36ヶ月目までに論文が提出できない学生は、LSHTM側ではwriting-up statusへ変更される。</li> <li>⑦ 学位論文提出期限（48ヶ月目）</li> </ol>

学位論文審査体制・審査方法・評価基準	主査 1 人, 副査 2 人を長崎大学及びロンドン大学から選任して審査に当たる。研究内容によっては, 副査を 2 名選任する場合もある。主査, 副査は提出された博士論文を読み, 口頭発表会及び質疑応答により最終試験を行い採点する。審査委員の採点に基づき, 教授会が最終決定を行う。
最終試験の評価方法・評価基準	最終試験は, 基本的に LSHTM の最終試験の手順に沿い, 審査委員が博士論文を中心として, これに関連ある項目について口頭または筆答により行なう。